



佐々木中学校だより

E-mail sasaki-jhs@inet-shibata.or.jp

電話 0254 (27) 2505

輝ける場所を見つけよう

毎年2月頃に、新潟地方法務局から「中学生人権作文コンテスト 新潟県大会作文集」が学校に届きます。今年度の作文集には、新発田市内2校の生徒の作文も掲載されており、例年以上に興味をもって入賞作を読みました。作文集の中の、「新潟県人権擁護委員連合会会長賞」を受賞した新潟市立中学1年生の一編を紹介します。(一部を抜粋し、一部を加工しました)

輝ける場所

私は足に障がいがあり、うまく走ることや歩くことができません。ハンデはあるけれど、みんなと同じように日常生活を送ることができています。それは、家族や友人など全ての人がサポートしてくれるからです。しかし、残念なことに、障がいがあることに對して可哀想と言われたりすることもあります。その中で一番つらいことは、出来ることを出来ない決めつけられ、他の子と同じように扱ってもらえないことです。

やってダメなら仕方がない。でも、やる前からダメだと決めつけられるのは違うと思います。そのことを考えれば考えるほど、苦しくてたまりませんでした。障がい者も健常者も同じ心を持った人間です。時間がかかっても自分で出来ることは自分でやらせてほしい、と思います。障がいがあることは、決して「可哀想」なことではないのです。誰にでも得意、不得意があります。私たちは、不得意な事が少し多いだけです。身近なハンデを持つ人の言葉にも耳を傾けてほしいです。一人でも多くの方が「輝ける場所」を見つけられるように。

今年度の佐々木中学校は全校生徒67名です。市内の他校と比べれば小規模校ですが、学校生活面では、全校生徒が取り組む「佐中サーキット」や「集団行動 巴」、清掃区域が新しくなる度の全校レクや、生徒朝会でのレクなど、67名が一つになって取り組む活動を多く工夫しています。今年度は、全校生徒が中越地方の防災学習施設を訪問し、長岡市内中学生と交流しました。他にも佐々木小学校5～



3年生が1年生に「巴」を指導

6年生に向けて総合学習の成果発表をしたり、イクネス新発田で職場体験ミッション提案発表会をしたりするなど、将来、社会に出て役立つ多様なスキルを身に付ける取組をしています。小規模校ですが、それを長所と捉えて、様々な教育活動を繰り広げ、生徒が豊かな体験を積むことができます。生徒が自分にとっての「輝く場所」を発見し、身の回りの友人にとっての「輝ける場所」を見つけてあげることができる機会や場面を工夫しています。次に、『なぜ人と人は支えあうのか ～「障害」から考える～』(渡辺一史 著)の中の一文を紹介します。

人は誰かを「支える」ことによって、逆に「支えられている」のです。また、こうも言えるでしょう。世の中や社会では、「支えられる人」ばかりだと成り立ちませんが、逆に、「支える人」ばかりでも成り立ちません。たとえば、医者も患者さんがいて成り立つ職業です。病気の人がいなくなったとしたら、医者という存在も意味を失ってしまいます。

「支える人」と「支えられる人」の双方がいてこそ、初めて自分の日々の生活を営めているのだということを思い起こすことは大切なことです。

佐々木中学校では、日々の教育活動を通して、お互いに支えたり、支えられたりを繰り返しながら、中学校生活を豊かなものにし、生徒自身が、豊かな感受性を培い、自分の進路をたくましく切り拓いていく強さを育てていけるように、これからも支援していきます。

「中学生人権作文コンテスト新潟県大会作文集」は、図書室でも読むことができます。

まちづくりドラフト会議で高校生の発表を聴いて来ました

2月4日（月）に、ヨリネス新発田4階の議場を会場として「まちづくりドラフト会議 for Youth」が開催され、2年生全員が見学しました。これは、新発田市が地域活性化に向けてのアイデアを市内の高校に通う高校生に募集し、それに応じた高校生が、自分たちの考える「町おこし」のアイデアを発表するというものです。

ヨリネス新発田の4階の市議会議場です



昨年度の2月、2年生は札の辻広場で、総合学習で取り組んできた「佐々木 PR 大作戦～佐々木へおいでよプロジェクト～」を発信し、今年度11月には、9月の職場体験の時に各事業所から提示されたミッションの「解決策」を、イクネス新発田多目的ホールで発表しました。

この2年間の学習成果に基づいて、来年度、中学3年生として、「新発田市の町おこしプラン」について考えを深めていこうとしています。

そこで、今回の高校生による「まちづくりドラフト会議」を参観し、新発田市内の高校生が考えるアイデアを聴くことで、これから「町おこし」プランを考えていくためのヒントを得ようと、計画されました。

高校生による発表は、西新発田高校の生徒の司会で、新発田高校、新発田南高校、新発田農業高校、新発田商業高校の4ヶ校5チームにより行われました。他に、敬和学園大学の学生からも発表がありました。高校生や大学生によるプレゼンは佐中生が取り組んできたことへつながる内容のものが多く、自分たちがこれまで積み重ねてきた学習の方向性に自信をもつことができました。

高校生の発表を聴いてきた2年生に「ドラフト会議」の感想を書いてもらいました。

2年男子S 私たちが1年生の時に発表した「佐々木においてよプロジェクト」や今年度11月に行った「職場体験ミッション提案発表会」でのプレゼンテーションよりも、高校生のみなさんが発表したプレゼンテーションの内容の方がレベルが高いと思いました。高校生の発表では、新発田市街の活性化が進んでいないという実態（という「表」の部分）だけでなく、その背景（「裏」の部分）についても考え、細かな点まで分析して発表していると思いました。新発田高校のみなさんの提案にあった、「イクネス新発田2階の「あそびのひろば」を、利用時間が終了した後に、高校生たちが楽しく話ができる空間として開放してはどうか」という考えはとても名案だと思って聞きました。ドラフト会議を聞いて学んだことを生かして、来年度4月の修学旅行を通して考えたことを加えて、新発田の活性化プランづくりにつなげていけるようにがんばります。

2年女子W 私が印象に残った提案発表は、新発田農業高校生による「新しいラーメンを開発する」という発表でした。ラーメン好きの人にはたまらない発表でしたが、発表を聞いていて、特に「すごいな」と思ったことは、「今ある、新発田の食材の魅力をそのまま、ラーメンの具材に詰め込んだ」という感じで、新発田市民にとってはうれしいし、他の市町村の人にも新発田をPRできるととてもよい企画だなと思いました。今回の、「高校生ドラフト会議」というステージで、新発田市内の高校に通う高校生の視点から「新発田の活性化プラン」を発表する姿勢も、新発田市長さんをはじめ大勢の大人の方が見ている中でも堂々とした立ち居振る舞いだったと思います。高校生が示していた堂々とした姿勢を、私たちも取り入れていきたいと思えます。

2年女子G 私たち2年生もこの2年間でたくさんのプレゼンをしてきたので、今回の「ドラフト会議」での高校生のプレゼンを聞き、自分たちのプレゼンの仕方をさらによくしようという意欲を持つことができました。高校生の発表は、ただ「主張する」だけではなく、自分たち

が行ってきたことをもとに、聞いている人を納得させるような内容になっていた点がすごいと思いました。私たちも、次の「プレゼン」の機会には、聞いてくれる相手によりよく伝わるように、自分たちが取り組んできたことを根拠にして、プレゼンができるようになりたいです。高校生のプレゼンでは、新発田中心部の商店街の活性化をキーワードにして、「シャッター街」にしないようにするための色々な工夫が発表されました。私も、高校生の発表から想像できるような活気づいた商店街なら、出かけてみたいと感じました。4月の修学旅行では、東京の有名な商店街などを見学して、新発田の商店街のPRの仕方などのヒントを見つけていきたいと思いました。

2年女子S 「ドラフト会議」での高校生によるプレゼンを見て、高校生のみなさんが、私たちが住む新発田市をもっとよりよい町にすることを目指し、長い時間をかけて作ってきたことが分かりました。私も、そんな高校生の姿を間近で見て、「総合学習で取り組んできた学習の成果をしっかりとまとめて、新発田市の役にたつようなプレゼンを完成したい」という気持ちが強くなりました。私たちは、4月の修学旅行で関東方面に出かけます。そこで、人口がどんどん増加する関東と、人口減少が心配される新発田市の違いについて、たくさん学び、その学びを最大限に活かして、新発田市に貢献できるような発表内容を考えたいと思いました。そして、個人的にも、新発田市をよりよくするための取組であるクリーン作戦や様々なイベントにも積極的に参加していこうと思います。

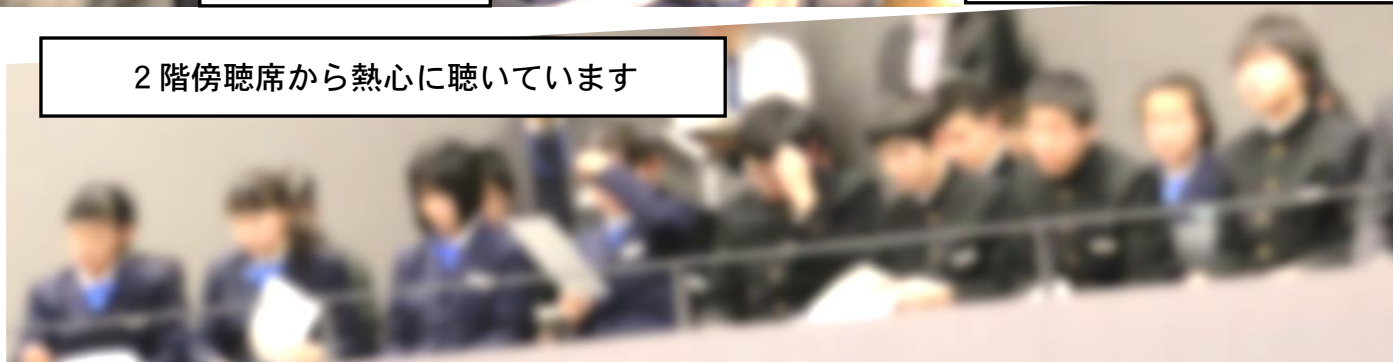
2年男子Y どの学校のプレゼンも、「新発田市が私たちの提案を採用してくれるに違いない」という自信に満ちていました。その中でも、新発田高校生が発表した「新発田の活性化 ～イクネスからの新発見・新発想・新発信～」は、僕が職場体験先に選んだイクネス新発田の活性化がテーマになっていたのも、提案内容がよく伝わってきました。提案内容は、これからすぐにでも実行できるような可能性があると感じました。僕たちは、これから、総合学習や修学旅行で学ぶことをプレゼンにまとめ、来年度はここに僕たちも参加し、今回の高校生ドラフト会議のレベルを超える発表をしたいです。



高校生による「町おこし」プランのプレゼンが、3年生からの総合学習での取組に参考になります。

市内高校生が大勢集まりました

2階傍聴席から熱心に聴いています



新発田市「市民書初大会」 入賞作

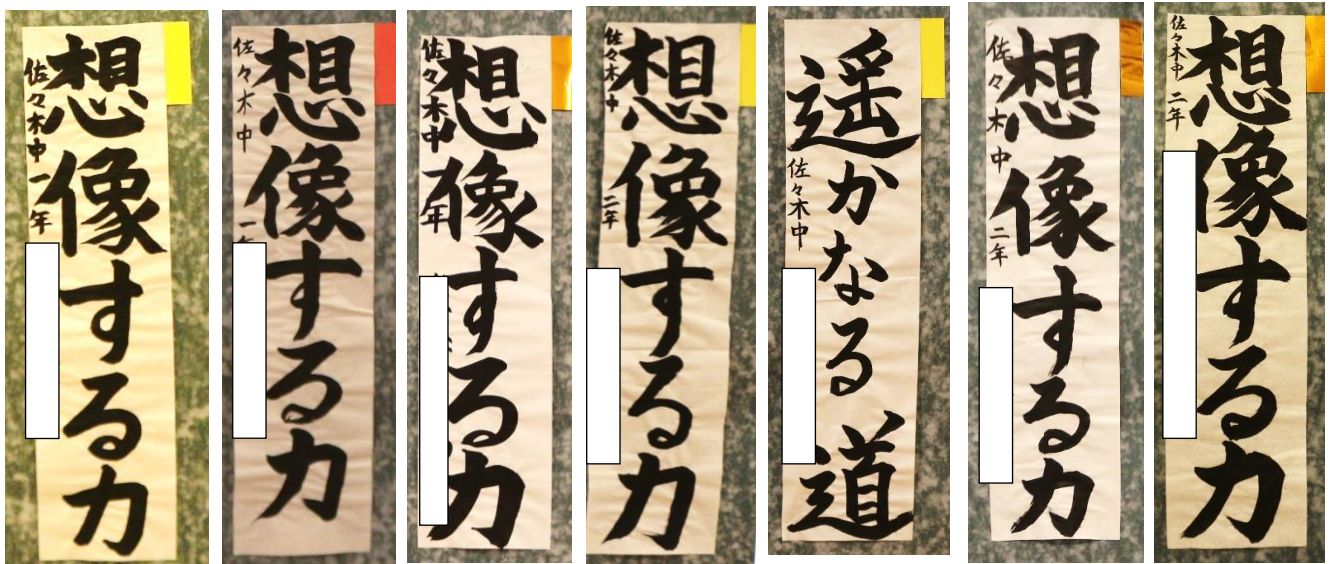
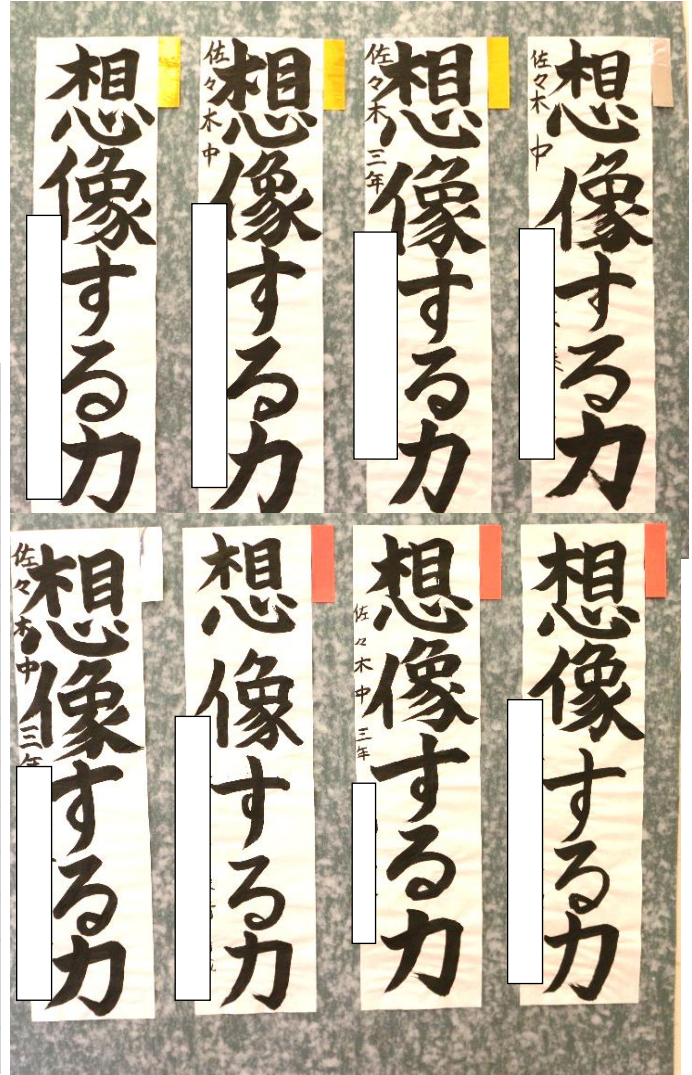
新発田市明るい選挙推進「市民書初大会」の審査の結果、佐々木中学校から15名の作品が入賞しました。この大会への出品にあたっては、2年生のIKさんとIMさんの2名が、課題作を書くための「手本」を書いてくれました。その手本のおかげもあり、たくさんの生徒たちの作品が入賞することができました。入賞作品は、2月9日～10日の2日間、新発田市生涯学習センターで展示されていたので、観覧に訪れた方も多かったと思います。

観覧に訪れた際に、会場でいただいたパンフレットに掲載されていた「中学生作品への講評」には、次のような生徒たちの力量を高く評価されるお言葉がありました。

「中学生の課題は、漢字と仮名の調和をどのようにするかを問うものでした。入選した皆さんは、立派に書けるのですから鑑賞力はついてはいるはずです。お互いの作品をよく観て、人のいいところを吸収してください。「目習い」で鑑賞眼を高めてください。そうすれば、「手習い」の技も向上します。」（一部を抜粋）

会場には、佐々木中学校生徒の作品が多く展示されていて、嬉しい気持ちになりました。

学年	審査	名前
1年	金賞	
	銅賞	
	佳作	
2年	金賞	
	金賞	
	佳作	
3年	佳作	
	金賞	
	金賞	
	金賞	
	銀賞	
	銀賞	
	銅賞	



三年生 「中学校生活3年間の思い出」

平成30年度の学校生活も残すところあと1ヶ月です。3年生と一緒に過ごせる日々もあとわずかです。卒業を直前に控えた3年生の気持ちがよく表れている文章が、毎週発行される「3学年だより Souvenir」に掲載されています。その中の数編を、みなさんにも紹介します。

3年間の軌跡 3年 T

僕は勉強が苦手に進学できるかが不安でした。でも、勉強をしていく毎にどんどん自信がつき、当日は、不安を自信が追い抜きました。急に不安が来ることもありましたが、周りの人が僕を励ましてくれて、不安に勝ち続けることができ、無事合格することができました。体育祭では、燃える両軍でこれまでに3回体育祭をしましたが、熱が弱まることなく、強い風が吹いても激しい雨が降っても消えることのない、燃える体育祭が好きでした。一つ一つの競技にこめる思いは、みんな人一倍でした。僕はこの学校が大好きです。大好きな理由はたくさんありますが、一番の理由は友だちです。小学校の頃から一緒にいた友だちは、僕が2年ほど転校して帰ってきても、優しく接してくれる、不安な時があっても励ましてくれる友だちです。そんな友だちがいること、全校と仲良くするためにするレク、毎回盛り上がる学校行事などがあるこの学校が大好きです。高校に進学したら、好きなスポーツのバドミントンをしたいと思っています。



3年間の中学校生活の思い出 3年 S

僕が学校生活で思い出に残ったことは3つあります。一つ目は、合唱コンクールです。僕は合唱が苦手なのであまり練習には励めていなかったけれど、最後の合唱コンクールなので、頑張って練習に取り組みました。本番では練習の成果を出して、最優秀賞が取れたのでよかったです。二つ目は修学旅行です。修学旅行では、大阪と京都に行きました。初日は大阪でお好み焼きを食べたり、新潟の名産品を大阪の人に売ったりしました。2日目は京都の観光地を回りました。清水寺などを中心にいろいろな所に行きました。3日目は大阪に戻って、USJ（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）に行きました。スパイダーマンのアトラクションなどがインパクトがあって、とても思い出に残りました。三つ目は職場体験です。僕はクリーニング関係の職場に行きました。今の職場はかなり機械を使っていると思っていましたが、肉体労働が多くて大変でした。あっという間の3年間でしたが、行事がたくさんあって充実した3年間でした。

卒業への思いとこれから 3年 N

「卒業」と聞くと、私は少し悲しくなります。9年以上一緒に過ごしたこの大好きなクラスのみんなとお別れしてしまうからです。4月からは高校に行って、新しい友だちができるかもしれないけれど、やっぱりこのクラスのままだいいなと思ってしまいます。私は不安も多く、卒業に対してあまりいいイメージを持っていません。私が今抱えている不安は、私と同じ高校の同じ学科に志望している人が今のクラスにいないので、高校で友だちを作ることができるかです。もしかしたらもっともって不安なことが増えるかもしれません。不安が増える一方、このクラスで過ごせる日はどんどん少なくなっています。だから、修学旅行や体育祭、合唱コンクールなどのたくさんの思い出を忘れず、このクラスで過ごせる残りの時間を大切にしていこうと思います。そして、第一志望の高校に合格して、4月からは新しい友だちをたくさん作って、高校生活を楽しみたいです。



読書感想文や税についての作文などの表彰作品を紹介します

読書感想文コンクール 今年度の市内中学生の読書感想文コンクールに応募した作品のなかの入選作を集めた「作品集」が届きました。佐々木中学校からも2名の感想文が入選し、作品集に掲載されました。「作品集」は図書室にも置いてありますので、ぜひ手にとって読んでください。

平成30年度「新発田市中学校読書感想文コンクール」入選作

「自由図書」部門 優秀賞 「僕は上手にしゃべれない」を読んで 3年 K

「自由図書」部門 優良賞 感謝は生きる力を与える 2年 G

*Kさんは、下越地区審査会で「優秀賞」を、県審査会で「佳作賞」を受賞しました。

Kさんの読書感想文を一部抜粋して紹介します。

「僕は上手にしゃべれない」を読んで

3年 K

この本は「吃音（きつおん）」という症状を抱えた中学生（悠太）が周りの人たちの優しさに支えられながら成長していく話です。私は、この本を読んで初めて、吃音というものを知りました。吃音とは、うまく言葉がでなくなったり、つかえてしまったりするものです。

この本は私に「周りの優しさに気がつくこと」の大切さを教えてくれました。自分が追い詰められれば、追い詰められるほど、自分のことしか見えなくなってしまいます。そして、周りの人の優しさに気づくことができなくなってしまうのです。でも、そんな苦しいときこそ、周りの人たちが力になってくれると思います。

この本を読んで、忘れがちなどとても大切なことを思い出すことができました。この本を通して、吃音への理解がもっと広まってほしいと思いました。

出典：『僕は上手にしゃべれない』 椎野 直弥 著（ポプラ社）

税についての作文 今年度の「税についての作文」では、3年生Fさんの「正しく使われなくてはならない税」が、新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞を受賞しました。その一部を紹介します。（全文は、新発田市ホームページで読むことができます）

正しく使われなくてはならない税

3年 F

今年の夏はいつもより暑い気がする。私たちの教室には扇風機が一台だけある。でも、私の席は扇風機から遠いから、まったくと言っていいほど風が来ない。気温32度の中で集中力を保つのは、正直きつい。だから、クーラーが欲しい。でも、教室にクーラーをつけるとすれば、その費用は税金でまかなうだろう。だから、「欲しい」と言っても、すぐにクーラーを設置することはできない。なぜなら、税金は、みんなから平等に集めた大事なお金だからだ。みんなが納得できるような理由がなければ、それは使えない。当たり前だ。

私は、租税教室で税の使われ方を習った。教育費や道路整備代までどれも大事なもののばかりだ。税金が正しく使われているからこそ、私たちは税を払うのだと思う。

しかし最近、個人の利益のために国の税金を使っていた人がいたとのニュースを知った。とてもショックだった。怒りを覚えた。私たちの教室にもクーラーがまだ設置されていないのに。税を待っている人はたくさんいるだろうに。

当たり前のようにある税だけど、私たちは税に支えられているということを絶対に忘れてはならないと思った。

（一部を抜粋して紹介しました）

国土緑化運動・育樹運動標語

にいがた緑の百年物語緑化推進委員会主催の標語募集に応募し、3名が表彰されました。

N（1年） 「木を植えて 未来に伸ばそう 小さな芽」

I（2年） 「植えようよ 未来へのびる 木々の苗」

I（3年） 「育てよう 未来へつながる 緑の命」

大河信濃

新潟県書き初め大会

準特選 3年 I S
 金賞 2年 I M
 金賞 2年 I K

新大全国書初大会

秀作 3年 I S
 秀作 2年 I M
 秀作 2年 I K

英語検定 2018年度第3回

5級 1年 G S
 5級 1年 N K
 5級 1年 T R

県中学校新人柔道体重別大会 (平成30年12月9日)

女子個人戦第5位
 2年 T H

英検5級に合格して

1年 G S

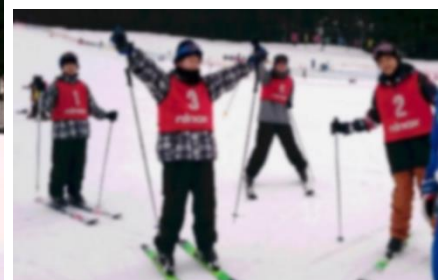
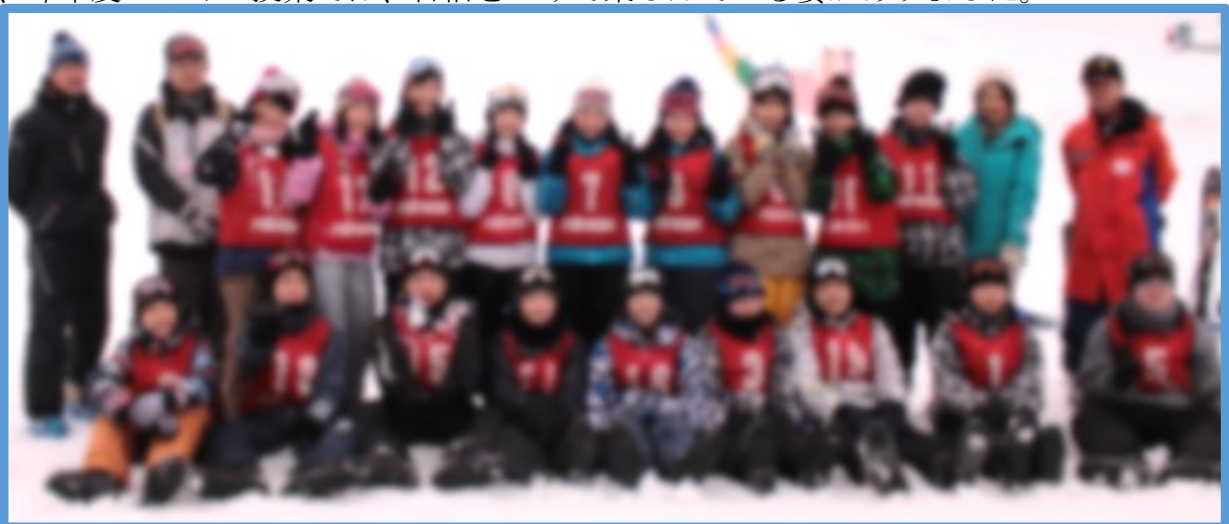
5級を受検する前には、特に、合格対策の問題集などに取り組んだりはしませんでした。定期テストを受ける時と同じ気持ちで、これまでの学力を試すつもりで臨みました。来年度は、英検4級に挑戦したいです。

今回の大会で入賞し強化指定選手に選ばれました。強化練習会では、下越地区以外の強い選手とも練習する機会があります。練習で感じた課題を克服できるように練習を重ねて、来年度の大会で他地区の選手と対戦した時には、よい結果が残せるようにがんばっていきます。

今年度も「スキー授業」に出かけました

2月20日(水)に2年生が、27日(水)には1年生が、ニノックススノーパークに、スキー授業に出かけました。佐々木中学校では、昨年度から2年生と1年生を対象にした「スキー授業」を始め、今年度は2回目の実施となりました。

2年生がスキーに出かけた当日は、ときどき雨が降ったり止んだりするといった、不十分のコンディションでしたが、そんな天候を苦にすることもなく、学校スキーに参加した2年生は、時間いっぱいスキーを楽しんでいました。昨年度のスキー授業で初めてスキーをしたという生徒も、今年度のスキー授業では、自信をつけて楽しんでいる姿がありました。



期末テストまでの「家庭学習量調査」結果

2月14日（木）、15日（金）の2日間、今年度最後の定期テスト（期末テスト）が行われました。3年生にとっては中学校生活最後の定期テスト、2年生・1年生にとっては今年度一年間の総決算としての定期テストでした。今年度の定期テスト前にはいつも、各学年が競い合うように家庭学習に取り組み、家でのテスト勉強時間の総時間量が日ごとに増えていました。

2月の定期テストでも、テスト直前の休日（2月11日）には、3年生全体で【5724分】、一人当たり【318分】と、全員が5時間以上勉強に取り組んでいました。

2月		7日 (木)	8日 (金)	9日 (土)	10日 (日)	11日 (月)	12日 (火)	13日 (水)	14日 (木)
1年生	合計時間	2320分	2745分	2795分 2895分	3395分	4550分	3800分	3930分	4040分
	平均時間	166分	172分	181分	212分	284分	224分	246分	238分
2年生	合計時間	2745分	2060分	4685分	4190分	4965分	3725分	4690分	4540分
	平均時間	145分	108分	247分	221分	251分	185分	247分	239分
3年生	合計時間	403分	3150分	6112分	5954分	5724分	5085分	5750分	4870分
	平均時間	183分	175分	284分	318分	318分	221分	259分	277分

3年生からの「学習ワンポイントアドバイス」です。2年生、1年生はぜひ参考にしてください。

- NA スマホやゲームは自分の手の届く所には置かない。家族に預かってもらう。
- MM 家に帰ってすぐにゴロゴロしないで、まず勉強する。早めに勉強を済ませることで、夜遅くまで勉強しないで済む。
- SK 30分勉強したら10分自由時間、みたいに自分に合っている勉強時間とちょっとした休憩（多すぎる休憩はダメ）を入れる。
- IK 単語などを覚える時には、目で見て耳で聞いて手で書いて、口に出して覚える。
- YA 間違えた問題は、次の日にもう一回解いてみる。
- IT 丸付けをしてみて、間違えていたら、もう一度解きながら答えを直したり、同じような問題に意識して取り組む。
- WH 勉強したくない気分の時でも、とりあえず勉強する時の机の前に座ってみる。
- SY 勉強の合間にテレビを見たり、遊んだりしていると、時間を忘れてしまいがちなので、テレビ画面に時刻を表示したり、スマホなどのアラームを使って時間を管理する。問題文を読むときにも、線を引きながら読み、解答するためのポイントをちゃんと押さえてから問題を解く。
- SY 英語の長文読解は、単語さえ分かっていたらある程度文章の内容がつかめるので、単語練習をがんばる。
- SM 自分一人で解いても分からない問題は、先生や友だちに積極的に聞いて、理解できるように努力する。
- SR テストの過去問は、本番と同じく45分間や50分間と時間を定めて取り組む。

冬期間の部活動にも課題をもって頑張っています



陸上競技部部長 2年 I

冬期の練習は、来シーズンの走りを大きく変えられるチャンスです。しかし、冬場の屋内練習が続く時期は、怠けてしまい、緊張感が薄れてしまいます。そこで、日々の部活動に緊張感をもって臨むように、1年生にだけでなく、2年生にも積極的に声がけをしています。毎日のトレーニングはきつく、単調ですが、今まで出来なかったことが出来るようになった時はとてもうれしいです。これからの練習でも、来シーズンに向けて、声の大きさや行動の速さを磨いていきたいです。そして、春には、部員一人一人が一皮むけた姿を見せられるように一生懸命がんばります。

吹奏楽部部長 2年 W

2月末の卒業コンサートでの2曲（「3月9日」と「HANABI」）の演奏の練習にこれまで取り組んできました。放課後の部活動の練習時間も短く、2曲を仕上げるのはキツかったですが、コンサート本番に向けて完成度を高めてきました。新年度に新入生からたくさん入部してもらえるように、これからの春休みから4月にかけては、「部活動紹介」で演奏する曲（なるべく、楽しく聴いてもらえる曲）を選んで、部員全員で練習をがんばりたいです。



剣道部部長 2年 I

チームとしての現在の課題は、勝たなければいけない場面で勝ちきれないこと、自分の技に自信をもてていないこと、応援の声が小さいことです。今後の練習予定では錬成会や遠征が予定されています。強いチームや選手と対戦できる貴重な練習の機会なので、とにかく色々な技に挑戦して、実戦で使える技を増やし、自分の技に自信をもつことができるように、一戦一戦に集中して取り組んでいきたいです。

柔道部部長 2年 N

新しいシーズンの始まる前の今こそ、部員全員でこれまで一生懸命にがんばってきたことを続けていきたいです。僕自身は冬期間の練習では、いろいろな理由で部活に参加できた回数が少なかったのですが、その分、自分でトレーニングをしていました。

今年度の残り1ヶ月も、部長として部員をまとめ、引っ張っていけるようにがんばります。